

令和元年度

第1回庄原市道徳教育推進委員会研修会

- 日 時：令和元年6月19日（水） 13：40～16：35
- 場 所：庄原市立峰田小学校
- 対象者：庄原市内各小・中学校の道徳教育推進教師26名

目 的

複式学級，少人数学級における児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につなぐ道徳科の授業づくりのポイントについて研修を行い，具体的な指導方法を学ぶ。
道徳科における評価の在り方について理解を深める。

研究授業 第3・4学年 道徳科

第3学年 「やくそくやきまりを守って」C11

第4学年 「もどらない本」C11

授業者 峰田小学校 教諭 佐々木 翼

事後協議 「複式学級，少人数学級における児童生徒の『主体的・対話的で深い学び』につながる道徳科の授業づくり」

【研究授業の概要】

- 庄原市内の複式学級においては，今年度，何時間か「わたりの道徳授業」を実施する計画としている。参加者が「わたりの道徳授業」を参観することで，授業での工夫点や改善策を学び，自己の実践を振り返ることをねらいとした。
- 複式学級において，ずらしの時間をいかに作るかを考える必要がある。そのため，第4学年については，事前に教材を読ませ，場面をとらえるための基本発問を家庭学習で行い授業に臨むという工夫を取り入れた授業であった。



指導・助言 「複式学級，少人数学級における道徳科授業について」
「道徳科における適切な評価について」

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 大橋 美代子



【指導・助言の概要】

- 複式学級，単式学級のいずれであっても，「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには，どのように問題意識をもたせるか，いかに自分との関わりで捉え，考えさせることができるか，そして，多面的・多角的な視点で考えさせることが大切である。そのためには，学習環境の工夫や教師の教材分析，発問力が必要となる。複式学級においては，特に，お互いの考えに対して，「問う」ということが必要になる。

受講者より

- ・深い学びに向かうための発問，切り返しが大切であると実感した。また，最初の考えと比較し，考えの深まりを実感させることも必要であると感じた。
- ・複式学級においては，発問をいかに精選するかということがポイントであると感じた。今後，自身の授業に生かしていきたい。